

株上昇率4位santec、データ拠点特需で新工場視野 スタンダード上場 発掘 東証スタンダード 株価上昇の上位企業①

2026/6/23 5:00 | 日本経済新聞 電子版



愛知県小牧市のsantec本社

東証スタンダード上場企業が株式市場で注目を集めている。日本経済新聞が主要企業の年初来の株価上昇率を調べたところ、4位に入った光測定器製造のsantec Holdingsをはじめ、人工知能（AI）など次世代の成長産業のサプライチェーン（供給網）を担う企業が並んだ。

【関連記事】 [「AI関連」が上位独占 26年に株価上昇したスタンダード上場企業](#)

ランキングは時価総額500億円以上の企業を対象にまとめた。santecが扱う光部品や光測定器は、主に光通信分野で使われ、AI需要の拡大でデータセンター向けの販売が伸びている。株価は6月19日時点で年初から3.2倍の2万8910円。時価総額は3457億円と、上昇率トップ10では最も大きい。

「1月の朝礼で『AI社会の到来は思っているより早い』と言った通りになった。AIブームの外的要因と業績、将来の期待が株価を押し上げている」。santecの鄭元鎬社長はこう話す。



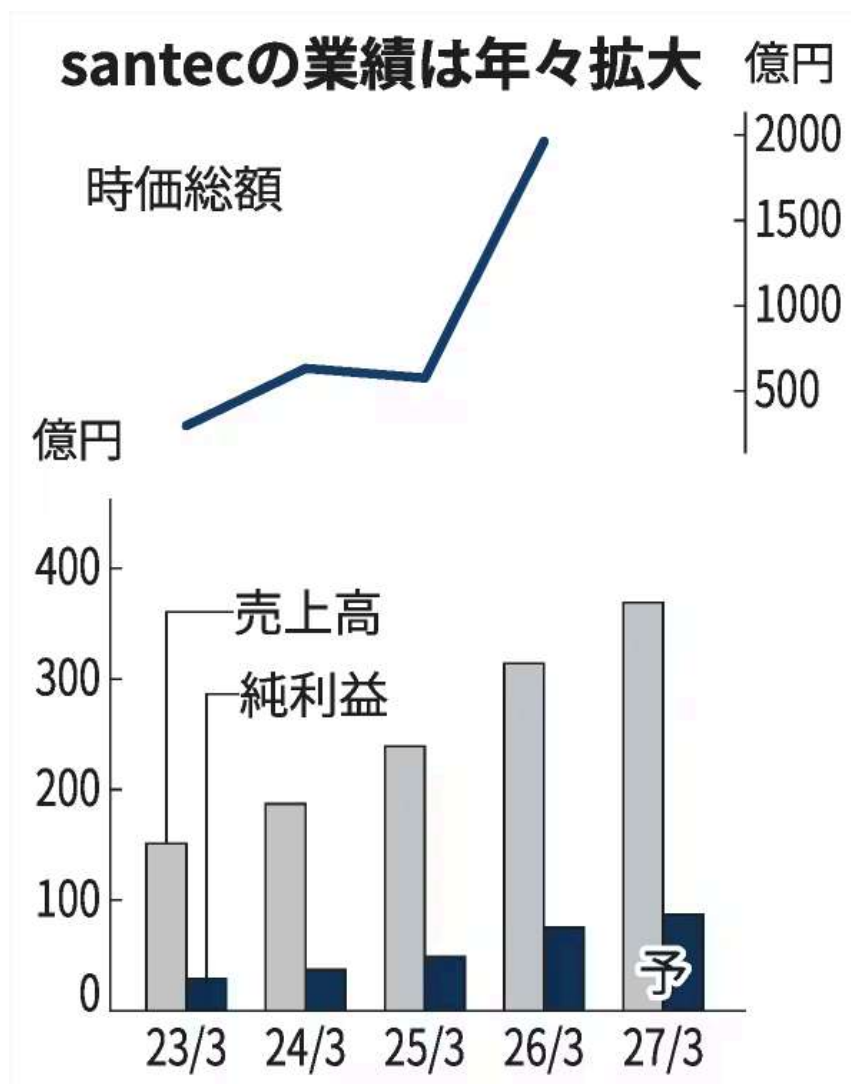
鄭元鎬社長

データセンターには半導体だけでなく、大容量高速通信を担う光ファイバーが欠かせない。その品質を支えるのが光測定器だ。超高速光トランシーバーや光ファイバーケーブルの性能・品質を検証し、不良を防ぐ検査装置を手掛けている。

顧客にGAFA

santecは競合他社に先行して商品を展開し、光測定器で信頼を勝ち取った。1984年に発売した世界初の光ファイバー性能測定機「FTS-2000」は精度や測定スピードの面で優れており、国内外で多くの導入実績がある。派生製品も光部品製造現場の特性検査用など、多くの研究機関で使われる。

光ファイバー内を伝送する光の強度を確認する光モニターでも世界最小の光モニターを開発し、その小ささから事実上の標準になった。santecの顧客には米GAFAの一部や世界の有名大学などが名前を連ねる。



2026年3月期の連結決算は、売上高が前の期比31%増の315億円、純利益は51%増の76億円といずれも過去最高を更新した。中国企業から安価な競合製品も出ているが、高頻度で使う測定器は信頼性が重視され、santec製品への支持は根強い。

業績拡大につながったのはM&A（合併・買収）の支えも大きい。21年にはコネクター付き光ファイバー検査装置を手掛けるカナダのJGRオプティクス、同業の米オプトテストをそれぞれ買収した。データセンター向け光測定器の供給体制を大幅に拡大した。

足元で需給が逼迫していることからカナダ・オタワで7月、新工場を稼働させ、測定器の生産能力は従来2倍になる。27年3月期は設備と人員補強で数十億円規模の投資を見込む。いちよし経済研究所の張谷幸一アナリストは「AI需要拡大で27年3月期は会社予想以上に収益が拡大するとみている」と話す。



データセンター向けの主力商品、コネクタ付き光ファイバー検査装置

カナダ、米カリフォルニア州、ベトナム・ホーチミン市、ダナン市、オーストラリア・ビクトリア州、本社のある愛知県小牧市で、全世界で6カ所に工場を持つが、鄭社長は「国内で新工場も検討している」と明かす。

鄭社長の父が1979年に創業し、初期から光測定器を手掛けてきたsantecだが、2000年代前半のITバブル崩壊では苦渋も味わった。03年3月期の売上高は前の期比7割減の14億円と大幅に急減した。鄭社長は「通信に頼りすぎていた」と振り返る。

多様な収益基盤

状況を打開したのが、2005年に世界で初めて開発した「OCT」向けの光源だ。OCTは光を使って物の表面や内部の状態を測定し、その構造を画像として見えるようにする技術で、眼科向け医療機器などで使われる。データセンターだけでなく、多様な用途の商品を手掛けることで業績の安定性を高めている。



OCT用光源を使って開発した眼科向けの医療機器（6月、愛知県小牧市）

苦しい環境下でも売上高研究開発（R&D）費比率は1割前後を維持して技術開発力を高めてきた。08年のリーマン・ショックの影響も受けたものの、光通信の拡大で18年度にITバブル崩壊前の売上高を超えた。

santecの社員数はグループ全体で26年3月末時点で427人。課題は開発人材の確保だ。離職率は5%程度と低いが、東京に本社を構える企業などと新規採用は激戦だ。このため25年から東京・浜松町の事業所で一部のエンジニアが働けるようにした。本社ではランチ無料の日やバーをつくるなど、福利厚生も充実させた。



本社ではバーをつくるなど、福利厚生も充実させた（6月、愛知県小牧市）

次世代の技術開発にも余念がない。25年には量子コンピューターに使われる特殊な波長の測定器を手掛ける豪MOG LABORATORIES PTYを買収した。将来性のある量子分野にも取り組んで業界で優位な立場の確保を目指す。

santecは売上高で年率15%の成長を見込む。鄭社長は「創業50年の29年度に30年度までの中期経営計画の売上高500億円の目標を前倒しで達成したい」と意気込む。

（行方友芽）

「発掘 東証スタンダード」では企業財務やマーケットの分析、経営者への取材を通じて東証スタンダード市場に上場する注目企業の戦略を追います。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.